

浜松・オイスカ高に地元企業が7万4000点寄贈

タカラ・エムシーとキリンビバレッジのキャンペーン

協賛会社のキリンビバレッジ（ベルマーク番号 54）と、静岡市に本社を置きスーパー事業を展開するタカラ・エムシーが協力して集めたベルマーク7万4214点が2月16日、浜松市のオイスカ高校（鬼石貞治校長、生徒265人）に寄贈されました。贈呈式は各教室に配信され、生徒によるプレゼンテーションもありました。

今回贈呈されたのは、タカラ・エムシーとキリンビバレッジが昨夏、共同展開したキャンペーンで集まったベルマークと、その後タカラ・エムシーが店頭で独自に回収したベルマークの合計です。

式ではキリンビバレッジ静岡支社流通担当課長の橋本康寛さんが「SDGsにも取り組むことで社会のお役に立ちたい」、タカラ・エムシー総務人事部の杉山敦哉さんは「これからも回収箱の設置を継続し、社会に貢献していきたい」と話しました。続いてエコバッグにぎっしり詰められたベルマークが、タカラ・エムシーの上野拓社長から生徒会長の松本海也さんに手渡されました。財団からは上野社長に感謝状を贈りました。

次に登壇したのはオイスカ高校でベルマーク活動を担う奉仕活動委員の11人。累計点数1500万点超という全国有数の活動校だけに、来場者は興味津々です。

同校のベルマーク運動への参加登録は1971年。前身の専門学校時代でした。その後、高校の母体・公益財団法人オイスカが海外ですすめる植林活動が、財団の友愛援助の一つに加わり、15年前に活動支援のため、生徒



①活動状況を発表したオイスカ高の生徒たちと、タカラ・エムシー、キリンビバレッジの関係者で記念撮影
②タカラ・エムシーの上野拓社長からベルマークを受け取る生徒会長の松本海也さん
③奉仕活動委員によるプレゼンテーション
④ベルマークが入っていたエコバッグは、実際に店頭で販売されているそう

の奉仕活動委員会が立ち上がったそうです。以来、急速に集票点数を増やし、2020年度は101万8740点で9度目の全国1位に輝きました。うち70万点は植林活動、10万円は東日本大震災援助事業に寄付しました。「ベルマークは商品にマークを付けている協賛会社があってこそその運動です」。発表には協賛会社への感謝も盛り込まれていました。

プレゼンを見て上野社長は「素晴らしい活動をされていると改めて感じました。これからもベルマークの付いた商品を一生懸命売っていきます」と話しました。オイスカ高校の鬼石校長は今回の寄贈を「温かい心の支援」と言い表し、「たくさんのマークを頂いたことは、今後の活動へのモチベーションにもつながります。有効に使わせていただきます」と感謝を伝えました。

ブラジル人学校向けキャンペーン開始

あいおいニッセイ同和損保、まず滋賀県から

協賛会社のあいおいニッセイ同和損保（ベルマーク番号 92）は、日本にあるブラジル人学校（全国36校）向けのベルマークキャンペーンを3月から始めました。同社の掲げる地方創生、多文化共生の取り組みとして、まず滋賀県でモデル展開し、その後全国に順次拡大していく方針です。

このキャンペーンは、ブラジル人学校でベルマーク収集を始められるよう、同社がサポートしていくものです。ブラジル人にとってなじみのない運動なので、親しみを持ってもらえるよう、同社はパンフレットなどをポルトガル語に翻訳し、回収箱も新たに製作。そこには、現地で国民的人気の漫画「モニカ&フレンズ」のキャラクターを起用しました。ブラジルの子どもたちならだれもが知っているのだそうです。

ブラジル大使館も全面的に協力。2月15日には東京・北青山の大使館でキャンペーンの発進式がありました。エドゥアルド・パエス・サボイア大使は「日本で長い伝統のあるベルマークキャンペーンに在日ブラジル人学校が加わることを大変嬉しく存じます」とコメント。あい



おいニッセイ同和損保の金田実執行役員は、同社が全国で360を超える市町村と連携協定を結んでいることなどを紹介したうえで「国内にいる約20万人の日系ブラジル人に寄り添いながらベルマーク収集活動を普及させていきたい」と語りました。モデル事業が始まる滋賀県の清水裕子・同社滋賀支店長は「地域を挙げて子どもたちの学びの場に温かい支援をしたい」と話しました。

①ポルトガル語に翻訳された「な～るほど！ベルマーク運動」
②「ベルマークを集めよう」も翻訳
③新たに作った回収箱を持って

NGP通じて10年以上、マーク寄贈

石川県自動車車体整備協同組合

石川県自動車車体整備協同組合（石川県車体協、車豊理事長）が、会員工場から集めたベルマークを、協賛会社のNGP日本自動車リサイクル事業協同組合（ベルマーク番号76）を通してベルマーク財団に寄贈しました。

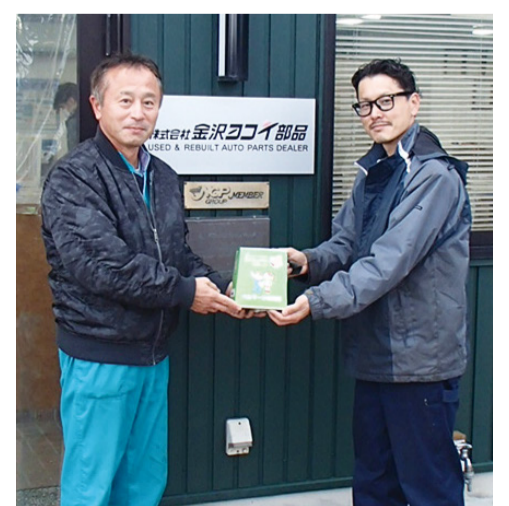
石川県車体協の専務理事、沖村隆雄さんによると、ベルマークの収集活動はもう10年以上続いているとのこと。現在の会員数は88工場。NGPのリサイ

クル部品には5点のベルマークが付いており、そうした部品を取り寄せた工場が地道にマークを貯めているのだそうです。これまでは工場を直接訪問した際にマークを回収していましたが、2020年以降はコロナ禍のため訪問自体ができないう状態が続いていました。

そこで「組合に送って欲しい」との通知を出したところ、各工場ではベルマークの収集を継続してくれていたそうです。

こうして集まったマークを昨年12月、車理事長がNGP北陸支部の理事会社である金沢ヨコイ部品に持参しました。

「せっかくのベルマークを、放っておくのはもったいないとみんな集めてくれています。うちとしてはこの活動を、今後もずっと継続していくつもりです」と沖村さん。ありがとうございました。災害の被災校やへき地の学校などのために、大切にに使わせていただきます。



ベルマークの贈呈。左が車豊・石川県自動車車体整備協同組合理事長